

川越みらい会議 2019

結果報告書

川越市

2019年10月

1. 実施概要

(1) 目的

「第四次川越市総合計画後期基本計画（以下「後期計画」という。）の改訂にあたり、市民から「誰もが住み続けたいまち」とするための具体的な方策を意見聴取することにより、後期基本計画策定のための基礎資料とすることを目的として実施した。

(2) 実施日

2019年6月29日（土）、30日（日）

(3) 実施場所

市役所7階 第5委員会室

(4) 参加者数

日程	人数
2019年6月29日（土）	25 人
2019年6月30日（日）	22 人
合計	47 人

(5) 実施方法

①話し合いの方法

市民からの多様な意見を収集するため、発言機会が多いグループ討議を行った。グループ討議の詳細は下記のとおりである。

項目	内容
話し合いの内容 （議題）	『だれもが住み続けたいまちにするためには何が必要か。』
話し合いの形式	<ul style="list-style-type: none">・グループ討議（ワールドカフェ方式）・模造紙、付箋を活用し、多様な意見をグルーピングしながら情報収集する（親和図法）・進行はファシリテーターが行う
グループの形態	<ul style="list-style-type: none">・参加者 5～6 名ごとに 1 テーブルとし、4 テーブルを設ける・各テーブルには、事務局側によるファシリテーター及び記録補助として 2～3 名を配置する

②話し合いのテーマについて

「川越みらい会議2019」では、前期基本計画を進めてきた中で評価できる点や課題等を踏まえ、基本構想の理念である「人と人とのつながりから広がるまちづくり」「魅力を高め、活力を生み出すまちづくり」「持続可能なまちづくり」とともに、人口減少が近い将来に見込まれる中で本市の活力を維持するためにも必要とされる「若者が住み続けたいまちづくり」の実現のために、2021年から始まる後期基本計画の期間において「進めるべきことは何か。そして、自分たち（市民、市）に何ができるのか。」ということについて話し合いを行った。

グループごとに話し合うテーマを以下のとおり設け、4つの視点からどのようにすれば誰もが住み続けたいまちになるのかという点について議論を行った。

1日目、2日目共通

テーブル	話し合う内容
A テーブル	人と人とのつながりから広がるまちづくり ⇒主に地域活動、協働、くらしに関する内容
B テーブル	魅力を高め、活力を生み出すまちづくり ⇒主に魅力創造、産業創出に関する内容
C テーブル	持続可能なまちづくり ⇒主に社会資本、都市基盤に関する内容
D テーブル	若者が住み続けたいまちであるためには

(6) 意見の取りまとめ

- ・話し合いでの意見は、日付ごと、テーブルごとにまとめを行った。
⇒本報告書3～10ページに「各テーブルの主な意見と当日の様子」として掲載
- ・当日に参加者と作成した付箋を貼付した模造紙に基づきながら、意見をカテゴリごとに分類した。
⇒本報告書11～18ページに「意見シートのとりまとめ」として掲載

2. 各テーブルの主な意見と当日の様子

A 人と人のつながりから広がるまちづくり：2019年6月29日（土）

<論点・総括>

人と人がつながるには、「集う場」とそこへ行く「つながる手段」が必要である。また、集う場だけあっても、何のために集うのか「きっかけ」がないと続かない。「きっかけ」を見つけることが重要である。



<意見の要約>

① つながる場

人と人がつながる場、集う場としては、公園、学校、コミュニティ施設、後楽会館などが考えられる。

学校は校庭や体育館、図書室の開放、学童保育をもっと広く使えるようにするといったことにより、地域交流の拠点としていくことが良いのではないかと。

公園については、そもそも公園自体の数が少なく、車を使わないと行けないといった課題がある。また、植栽の工夫などにより、若い人が魅力を感じるような公園としていくべきである。

② つながる手段

人と人がつながる手段として、交通、広報・情報発信、データベースなどの意見が挙げられた。

交通では、高齢者でも使いやすい公共交通としていくことが必要であるとともに、自転車で移動しやすいまちづくりを進めていく必要がある。広報・情報発信では、市民が思っていることをより行政に伝える仕組みが必要である。また、市民の得意分野を登録したデータベースが構築できるとお互いにつながりやすくなる。

③ つながるきっかけ

人と人がつながるきっかけとして、自治会、まつり、健康づくり、子育て、住民同士の支援活動などが挙げられた。

地域のまつりを活かしたコミュニケーションづくり、若い人と高齢者との知識共有の場などの創出などが考えられる。



<論点・総括>

これまで取り組んできた歴史資源を活かしたまちづくりを、今後とも継続しつつ、住みよいまちづくりに向けて、住民目線でのまちづくりに取り組んでいくことが重要。地域の主体的な取り組みを視野に入れ、若者がまちづくりに参加できる仕掛け・仕組みが重要となる。



<意見の要約>

- ①歴史を活かしたまちづくりを基礎に、さらに、川越の豊かな資源を活かし、PRする

蔵の街並みや、川越まつりなどの歴史を活かしたまちづくりの成果が、ここ10年で現れてきている。外国人の来訪者も増えるなどの成果も見えてきている。

さらに、観光交流を通じて、地ビールなどが情報発信され、知名度も上がってきていると考えられる。観光から、市の特産品販売といった効果の波及も見られるようになってきている。

今後とも、歴史を活かしたまちづくりを継続しつつ、さらなる資源の活用と、情報発信に取り組んでいくことが重要と考えられる。

- ②住んでいる人にもっと、やさしく、住みやすいまちにする

歴史を活かしたまちづくりは、「来街者」目線でのまちづくりであることに対して、今後は住民目線でのまちづくりが重要との意見が挙げられた。

公共施設などの資源はあるものの、場所が分散しており、行きやすい場所がない。バスなど、アクセスの工夫が必要との意見が出された。どこも横並びではなく、他都市にはないようなサービスがあるなど、住みやすさの魅力を高めていくことが重要と考えられる。

- ③人づくりや居場所づくり、若者が主役となったまちづくりを進める

若者にとって魅力的なまちを念頭におくと、大学や有名高校がある特徴を活かして、若者が活躍できるような機会や場づくりが重要と考える。

人づくりや居場所づくりなどについての意見が出された。これらは、自治会など、地域が主体的に取り組むべきことと考えられるが、現状では、若者の参加が得られない状況にある。若者が企画するイベントなど、若者が地域のまちづくりに参加促進できるような仕掛け・仕組みづくりを行っていくことが重要と考えられる。



<論点・総括>

中心部における開発や観光のまちづくりに加えて、周辺地域や住宅地に目を向けた持続可能なまちづくりを進めることが必要であり、特に、地域の様々な人々が集まる身近な居場所づくりと地域の生活を支える公共交通の充実が求められる。



<意見の要約>

①地域の身近な居場所づくり

高齢者、子ども、地域住民のそれぞれの視点から、地域の交流や活動などの状況を見ると、地域の身近な居場所が少ないことが課題として挙げられる。

地域の空き家や空き教室などのストックを活用し、住まいの近くで活動できる場を確保することが大切であり、地域の人材を活用して、若い人のパソコンやスマホ等のスキル、高齢者の経験や知識・技術等を伝えるという活動を進めていくことが考えられる。

②地域の足となる公共交通の充実

生活者の視点から見ると、既存のバス交通や地域のシャトルバスなどは不便な点があり、オンデマンドバスも予約がしにくいなど使いづらい面がある。

今後、高齢者の運転免許返納が増えることなども踏まえて、地域のバス路線のルートや本数などの充実、使いやすいオンデマンドバスの普及などが必要である。

③永く住み続けられる住宅地の整備

中心部の魅力づくりが進められているが、住宅地側のまちづくりがあまり進んでいないため、まちづくりの温度差が感じられる。

持続可能なまちづくりを進めるためには、住宅地の生活道路や身近な公園などのハード面の整備を進めるとともに、環境への配慮を含めて、地域の美化活動などを通じた地域コミュニティの充実、ごみ出しのルール徹底やリサイクルの向上などの環境面の充実など、ソフト面の対策も必要である。



D 若者が住みたいまちであるためには：2019年6月29日（土）

<論点・総括>

若者が住みたいまちであるためには、まず、「住むまち」として、まちの魅力を高める必要がある。そのためには、居住環境を充実させることが重要である。若者が住んでみたくなる環境、子育て世代が子育てしやすい環境を整える必要がある。何より、まずは若者の意見を聞くことが重要である。



<意見の要約>

①住むまちとしての魅力の向上

基本的に多くの世代にとって住みやすい環境は、若者にとっても住みやすい環境になると思われるので、道路、公共交通、住宅、都市機能、働く場といった環境を多くの人にとって魅力的なものにすることが重要である。また、地域のまつりなどに若者にも参加してもらい、若い人が地域と関わり、川越に住むことの良さを感じてもらえるようにすると良いのではないかな。

②住みたいまちであるためのターゲット

議論のテーマが「若者」となっているので、ターゲットは大学生や子育て世代となるだろう。

川越に大学はあるが、卒業後は市外に出て行ってしまふ。「子育てするには良いところ」「住むにはよいところ」といったイメージを持ってもらうことが重要である。

川越は都心への利便性が良く、都心に働きに出ることもできるので、更に子どもの医療環境、子育て支援サービスの充実を行うと良いのではないかな。女性が働きながらも子育てしやすい環境を整えることで、住むまちとしての魅力が上がると思う。

③PR・情報の発信

川越は観光の街という印象が強いと思う。そのイメージは上手く活用しつつ、川越に住むこと、住み続けることの良さやメリットを若者や子育て世代に分かりやすく、発信、アピールすると良いのではないかな。

また、定住してもらうために、まずは住んでもらう仕掛けを作ると良いのではないかな。



A 人と人とのつながりから広がるまちづくり：2019年6月30日（日）

<論点・総括>

人と人がつながるには、地域や世代間の温度差を埋める交流活動が必要である。交流活動は続けていかないと意味がないので、参加者各自が楽しみながら活動できる工夫が必要である。

また、みんなが交流活動に参加できるよう、広報、掲示板、インターネット、学校や保育園からのお知らせなど、あの手この手で情報発信をしていくことが必要である。



<意見の要約>

①温度差

世代、地域、住居形態などの違いにより、地域活動に対する温度差が感じられる。

若い世代からは、地域のお年寄りに子どもの勉強を見てもらうことや、親としての悩みを聞いてもらいたいといった要望がある。高齢者世代からは、若い世代と交流することは元気をもらえるのでもっと頼ってもらいたい、といった意見もあり、双方のニーズをつなぐ仕組みが必要である。

②つながる場

人と人がつながる場として、自治会、まつり、学校活動などが挙げられ、それぞれにゆるやかではあるが、地域におけるつながりを形成している。

ただし、自治会の入り方が分からない、川越まつりではどうやって山車を曳けるのかが分からないなど、特に若い世代を中心につながりを持ちたいのにその方法が分からないといった課題がある。

今のつながりをもっと広げていくためには、自治会活動のPRやまつりへの参加機会を増やすといったことが考えられる。

③情報発信

インターネットを使わなくても誰でも情報にアクセスできるようにすることが大切である。

④人と人とのつながりを考えた時に大切なこと

大切なのは、自治会の充実やネットワーク化であり、趣味や好みにあった活動により楽しみながら取り組めるような工夫が必要である。



B 魅力を高め活力を生み出すまちづくり：2019年6月30日（日）

<論点・総括>

魅力を高め、活力を生み出す前提として、インフラ等の都市基盤が整っていることが必要である。

川越市は歴史・文化があり、郷土愛が強い地域性があるとともに、「小江戸川越」という観光地ブランドが確立していることから、今後は住む人と来る人の2つの視点でターゲティングを行い、魅力を高め活力を生み出す必要がある。



<意見の要約>

①都市の基盤づくり

魅力を高め、活力を生み出す前提として、歩行空間の確保や、小児科などの医療機関を増加させることなど、都市基盤づくりが必要である。

②活力を生み出す資本

少子高齢化に伴い、税収減が見込まれる状況では、次世代を担う若者の意見を取り入れることや、若者が定着するような施策を進めることが必要である。

また、市内には工業団地などがあり、働く場がないわけではないので、これから働く若者に地元に残ってもらうために働く場があることをPRしていく必要がある。

蔵通りを中心に観光客は多数来ているが、リピーターが少ない。再訪を促すようなイメージ戦略を持った観光まちづくりを行っていくことも必要である。

③川越の魅力

緑豊かで、蔵通りのような歴史的な街並みがあるとともに、歴史やものづくりの伝統文化が根付き、郷土愛が強い市民が多いところが魅力である。

④川越の魅力の継承・発信

川越の魅力である歴史・文化を子どもの頃から学ぶことができる機会を設け、川越への誇りや愛着を醸成することが必要である。

また、魅力を発信するツールである広報誌についても、デザインや掲載内容を工夫する必要がある。

⑤川越の魅力を支える人のつながり

地元コミュニティが形成されており、地域のまつりに若者も参加している。今後も、このコミュニティを維持していくためにも、年齢層別にコミュニティスペースを設けることが必要である。



<論点・総括>

人口減少下での市の税収の減少を見据え、地域でできることは地域で担っていくという住民主体のまちづくりが必要である。また、そのためには、地域に住民が気軽に集えるような場を設けることが重要である。

また、地域の活力を維持していくためには、移住促進の強化が必要である。観光地としてのPRだけではなく、安心して暮らせるまちということを市民自らがPRしていくことが重要である。



<意見の要約>

①都市基盤

中心部では道路の無電柱化など都市基盤の整備などが進んでいる。しかし、郊外部の道路整備が遅れていることや、観光客増加による交通量が増加していることで、交通の安全性が低下していることが課題である。

安心、安全な道路環境の整備を進めることに加え、地域の危険な箇所のカルテを作成して住民周知を図るなどソフト面での取組みも進めていくことが重要である。

②財政

人口が減少し、市の税収も減少することを踏まえ、まちづくりを考える必要がある。

そのためには、市の財政状況の見える化や財政のマネジメント強化を図るとともに、市民ボランティアを活用するなど、地域や市民がまちづくりに協力することで、財政負担を軽減していくことが必要である。

③環境、景観

良好な住環境を維持していくために、ゴミの分別回収など地域の暮らしのルールを定住意識が薄い人にもしっかりと周知し、守ってもらうことが課題である。

行政から多言語のガイドブックを配布するなど、ルールの周知を徹底することや、自治会の積極的な声かけが必要である。

④ひと・地域

住民主体のまちづくりの推進や地域の活力の維持のために、まちづくりの担い手の確保、地域コミュニティの場づくり、移住促進が課題である。

移住促進に向けて、子育てのしやすい環境整備や子育てに対する支援を充実させるとともに、川越市の暮らしの魅力をPRしていくことが必要である。



<論点・総括>

「若者が住み続けたいまち」であるためには、川越の魅力を知ってもらうことが重要である。一番街に代表される歴史的街並みなどの観光PRは充実しているが、住むまちとしての魅力や生活情報をもっとPRする必要がある。また、子育ての点での安全・安心といった「住むまちとしての魅力」の向上も必要である。



<意見の要約>

① 川越の魅力を知ってもらうための手段

多くの大学が立地しており、多くの大学生が川越にいる。これらの人的資産を活かすためには、若者が楽しめるソフト・ハード面での魅力の充実が必要である。

ソフト面では、川越まつりなどの代表的なイベントに積極的に参加してもらうことや、農業へのふれあいを介した出会いの場を創出することなども考えられる。また、職業体験の場を確保し、川越での就業をイメージしてもらうことも考えられる。

ハード面では、空き家を学生向けの住宅として提供したり、若者が気軽に利用できるスポーツ施設を充実させることなどが考えられる。



② 住むまちとしての魅力を情報発信する

歴史的街並みをはじめとする観光地としては良く知られているが、生活する・住むまちとしての魅力はPRできていない。

歴史のあるまちとしてコミュニティが残っており、地域が子どもを見守るというように人に対して優しい一面がある。また、自然災害も少なく、買い物環境も充実している。更に、身近な所に自然も残っている一方で、東京都心へのアクセス性が高い。このような魅力を情報発信すべきである。

③ 魅力を磨く

「住むまちとしての魅力」はあるものの、まだまだ課題は多い。

子育て支援では、東京都内に比べ保育園に入りやすく、学童クラブも充実している。この魅力を維持していくことが重要である。

課題としては、子どもの医療体制、交流の場となる広場空間の不足、市内交通環境と歩行者の安全性確保などがあげられた。これらについては、魅力向上のために課題解決に向けた取り組みが期待される。

3. 意見シートのとりまとめ ※各テーブルで作成した意見シートをもとに、意見をテキスト化したものです。

<h1 style="font-size: 2em; margin: 0;">A</h1> <p style="margin: 0;">人と人とのつながりから広がるまちづくり</p>	<p style="text-align: center;">【話し合いの論点】</p> <p>○人と人がつながるには、「場」と「手段（交通など）」が必要。 ○「場」や「手段」だけあっても続かない！つながるきっかけを見つけることが重要。</p>	<p style="text-align: right;">開催日 2019年6月29日(土)</p>
---	--	---

つながるきっかけ		
<p><自治会></p> <ul style="list-style-type: none"> ▲自治会に加入していない人が増えた。どこに一人暮らしの人がいるか分からない。助け合おうという中、困るのではないか。 ★自治会活動の活発化は大事 ▲自治会活動に出てくるのは、高齢者ばかりで、役員の負担が大きくなっている。 ▲自治会活動が盛んでも、ごみゼロ運動に参加するのは高齢者ばかり。若い人は参加しない。⇒地域のつながりが育っていない。 ▲隣近所のコミュニケーションはいい方だけど、交流が少ない。情報交換が町内では求められない。 ◎自治会は盛んで、加入率も高い。 ★自治会への加入促進のため、転入者に働きかける。 	<p><まつり></p> <ul style="list-style-type: none"> ★川越まつりを活用する（山車の準備はつながるよい機会である）。 ★地域のまつりを活かしてコミュニケーションづくり。つながりを作る。 ★市が保有している川越まつりの山車を活用する。 ▲旧市街のつながりやなわばり意識が強いと感じる。新市街の人も川越まつりに参加できるようにすると良い。 	<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ★住民が役所に向くことなく住民側に届くサービスがあると良い。 ★ITについて市民が気軽に学べる場があると良い。 ★若い人と高齢者の知識を共有し合う場所があれば良い（インターネットを活用）。 ▲高齢者と若い世代との交流の接点がない。 ▲地域のつながりが、小学校で切れてしまう。 ★今日のような話し合う場をもっと行えば良い ▲中心市街地と周辺の地域とのつながりがない。 ◎中心市街地では、地域の中でつながりが残っている。 ★世代を超えたつながりづくりに取り組んでいるのかもしれないが、もっと大々的にシステムチェックにやる。
<p><住民同士の支援活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ★登録した市民が高齢者の依頼を受け、買い物して届けるサービスがあると良い。 ★得意なものを持っている高齢者をどんどん活用すべき。 ★子育て世代は、地元の高齢者にもっと甘えてよい。 ★地域の方が毎週学習支援を行うと地域交流が進むのではないかな。 	<p><スポーツ、健康づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎グランドゴルフは普及している。 ★スポーツを通じた交流をしてはどうか。 	<p><子育て></p> <ul style="list-style-type: none"> ★子育て世代を優先するまちは人が伸びている。 ▲市立川越高校の老朽化が進んでいる。対策しないと若者が好むまちにならない。 ★進学は色々大変。心のゆとりを持って取り組めるよう情報があると良い。

つながる場		
<p><公園></p> <ul style="list-style-type: none"> ▲緑が少ない、公園が少ない。 ▲緑・遊び場がないから若者世代が減少したのではないかな。 ▲公園が離れている。車でしか行けないため、車が使えない人は使えない。 ★緑・公園があると人がつながるのでは。外から来た人もつながりやすいものがあるとよい。（駅前の商業施設だけでなく） ▲水上公園は土日にイベントで使われていて、市民が使えない。 ▲外で遊ばせたいが、新しくできた町には公園がない。 ★若者は増えているので、魅力ある公園を作ってはどうか。 ▲農地を潰して家が建つが公園が少ない。ようやく公園があっても、つまらない公園が多い。ボール遊びができる公園がほしい。 ★ニューヨークのセントラルパークのような公園。日本は狭いし難しいかもしれないが。 	<p><学校開放></p> <ul style="list-style-type: none"> ▲子どものために活動する場所（アフタースクールなど）が非常に少ない。 ▲子育て支援に対して川越市がどのようにプランしているのかが分からない。 ★学童の考え方が古い。親が共働きでなくても利用できるように、広く開放してはどうか。 ▲不審者の防犯メール届く状況では、外で遊ばせる場所は学童などに限られるのではないかな。 ▲小・中学校の開放度が非常に悪い。 ▲小・中学校の開放が、所沢・飯能に比べて遅れている。 ▲老人だけ、若者だけ、子供だけが集まる場だけではなく。デイサービスと学童保育を活用して、お母さんが働けるようにする。 ★学校を地域交流の拠点とすべき（学校開放）。 ★地域の小中学校で図書館の本が借りられる仕組みがあると良い。 ★グリーンパークにある小学校の空いている教室を交流の場にする。 	<p><その他施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ▲人と人が交流する場が少ない。 ・人と人がつながる場をどうやって作るか？（市がやることか？） ▲空き家が増えた。放っておくと犯罪の温床。 ★中心市街地以外に集まれるような場所があった方が良い。 ★高齢者と若者が出会う場が必要。
<p><デイサービス・保育園></p> <ul style="list-style-type: none"> ★皆が一緒になって交流できる場が必要。 	<p><お風呂、後楽会館></p> <ul style="list-style-type: none"> ▲東後楽会館がなくなり、お年寄りの行き場が少なくなった。カラオケ・囲碁・将棋ができる場がなくなった。 ★（鎌ヶ谷市）温浴施設にプールが併設して、利用したくなる施設。プールもあれば日高、坂戸、飯能からも人が呼べる。 ▲西後楽会館は終了時間が早い（15:30には終わる）。 ★温浴施設に併設したコミュニティ施設であれば、同窓会+先生も呼べる。 	<p><コミュニティ施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ▲公民館が少し閉鎖的であるように感じる。住民との交流が少ない。 ▲自治会館が小さく散らばっているため、使いづらい。 ★高齢者の交流の場が必要。 ★（志木市）学校と公民館が併設。子どもと地域が交流する場になる。 ★駅前に中心となる図書館が欲しい（交流の場）。 ★病院でのコミュニケーションではなく、もっと地域で集まれる場があると良い。

<p>つながる手段</p> <p><バス・自転車></p> <ul style="list-style-type: none"> ▲シャトルバスはちょうど使いたい昼頃の便がない。 ★需要に合ったバスのルート本数を設定する。 ▲免許返納しても自転車での代用は難しい。 ★車を利用しなくても、徒歩やバス交通が発達するまちづくりを進めてはどうか。高齢化が進むことは止められない。 ★自転車を使いやすいまち。 ★小型のマイクロバスなどを活用し高齢者が出歩きやすいと良い。 ★高崎市には、子どもと高齢者用に無料バスが2台ある。
<p><広報・情報発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ★市民のみんなが思っていることを行政に伝える仕組みが欲しい。 ★アトレ、ウェスタ等の看板、サイネージをオリンピック等ではなく、地域の情報発信に使う。
<p><データベース></p> <ul style="list-style-type: none"> ★自分の得意分野を登録したデータベースがあるとお互いに頼みやすい。交流にもなるし、高齢者の能力活用にもなる。

凡 例

- ◎ピンク：良いところ
- ▲青色：悪いところ
- ★橙色：アイディア・提案
- ・緑色：その他

B 魅力を高め、活力の生まれるまちづくり

【話し合いの論点】

- 歴史を活かしたまちづくりを基礎に、さらに、川越の豊かな資源を活かし、PRしていく。
- 住んでいる人にもっと、やさしく、住みやすいまちにする。
- 人づくりや居場所づくり、若者が主役となったまちづくりを進める。

開催日

2019年6月29日(土)

歴史・まつりなどの資源を活かす

<川越まつり・イベント>

- ◎川越まつりが、子どもとお年寄りなど、人がつながる良い機会になる。
- ◎まちに、若い人が増えてきた。
- ◎松江町の人達は、地域意識が高く、川越まつりへの思いが強い。
- ▲川越まつりの参加者は高齢者が多く、若者が参加しづらい雰囲気がある。
- ▲山車を引きたくても、参加の仕方が分からない。
- ★川越まつりをどう活用して、守っていくのかが重要。

<観光資源>

- ▲歴史といっても「あっ」というところがない。
- ▲かつては、お寺がまちの中心だった。今はその役割を果たしていない。
- ★観光を売りにするのであれば、まつり会館は、無料にしてPRしてはどうか。

<街並み>

- ◎中央通りのリニューアルに市で取組んで良かった。きれいになった。
- ★まちをきれいにする。電柱・電線を無くすことも良い。
- ★各地域にある資源を発掘・発信すると良い。

<アクセス・回遊>

- ▲蔵のまちは、車が止められない。駅から遠い。
- ★蔵のまちと駅との間の魅力を高める。
- ★ICT技術を活用して、バスをもっと利用しやすくする。
- ▲川越の観光は疲れる。まちなかには休む所がない。座れない。
- ★休める場所をもっと設けた方が良い。
- ★一時でも子どもを預けられると、観光しやすくなるのではないか。

住みやすくする

<住環境、生活の利便性>

- ▲観光は、住む人にとってのメリットが分からない。
- ▲住んでいる人間に優しくない。
- ▲いろいろな資源が点在。利用しづらい環境にある。
- ★市民をもっと丁寧に見て欲しい。
- ★子どもが遊べるよう、ボール遊びができる公園があると良い。
- ★観光と住む魅力を分けて考える必要がある。住むことの魅力を高める。
- ★バスの利便性を高めるなど、みんなで見解を出す。
- ★自然を活用して、子育てしやすい便利なまちにできると良い。
- ★地下街を作ってはどうか。
- ★川越に住むことの魅力をPRする。

<街並み・美化>

- ▲まちがきれいではない。自然・緑が目に入っていない。
- ★道路の美化、河川浄化により取り組むことが重要ではないか。

<にぎわい>

- ★大規模ショッピングセンターは、まちの魅力にならないか。
- ★地下街をつくってはどうか。

問題提起

- ・若者に住んでもらえるまちとしての魅力を高めることが重要。
- ・仕事や住む、訪れるなど、様々な観点から魅力づくりについて話し合ってはどうか。

凡例

- ◎ピンク：良いところ
- ▲青色：悪いところ
- ★橙色：アイデア・提案
- ・緑色：その他

地域で取り組むこと

人づくり

<学びの場・機会>

- ▲子ども新聞など、地域の文芸・文化活動に市からの援助がない。費用対効果が出ないという理由で、予算がつかないと聞いた。
- ▲学校教育で、プログラミングを教えるというが、専門の人材はいるのだろうか。学校の先生は大変だ。
- ★図書館をもっと使いやすくする。多くの人々が学べるようにする。
- ★講座などに、多くの人々が参加できる工夫をする。時間・場所の工夫が重要。
- ★LINE・SNSなど情報発信の工夫も重要。

資源活用・PR・情報発信

<歴史以外の資源>

- ◎笠幡はカッコイイが鳴く。自然が魅力だ。
- ◎川越は、教育・文化・自然など、良い点が多い。
- ◎農産品、地ビールなど、蔵のまちや川越まつり以外の資源がたくさんある。
- ◎入間川・荒川などの自然環境が豊かなことも資源になる。
- ▲以前に比べ、緑・自然が少なくなった。
- ★自然を守るための取組が重要。

<PR・情報発信>

- ▲江戸時代前の歴史資源がある。川越城後から古墳が発見されたことは驚いた。
- ▲市内には色々な風景などがあるが、エンターテイメントに活用されていない。
- ★川越の良さを分かりやすく情報発信する。市外の人を呼び込む魅力になる。
- ★地域資源をエンターテイメントに活用する。市民手づくりで、寄付を募る。
- ◎百万灯まつりは、若者が集まり、頑張れる良いイベント。
- ▲若者が集まる地域のイベントが減ってきたように思う。
- ★地域のイベントをもっとPRする。若者が戻ってくるきっかけになる。
- ★地域のイベントをメディアを使ってPRすると良い。
- ▲川越市は、情報発信が下手なのではないか。情報発信が縦割になっている。
- ▲発信が足りないのではないか。
- ★西武鉄道はPRが上手い。一緒にPRしてもらえると良い。
- ★鉄道沿線にあることを活かした情報発信はどうか。
- ★アニメをうまく活用して、情報発信すると良い。
- ★電車の中など、誰でも目に触れるような工夫をする。
- ★ICTを活用した経済活性化(トークンエコノミーなど)はどうか。空間を超えて広く地域資源や人との結びつきを生む仕組みがある。

人づくり・居場所づくり

<公共施設を活用した居場所>

- ▲若者だけではない。お年寄りの集まる場も少ない。東後楽会館がなくなった。西後楽会館は遠い。
- ★学校の空き教室等を活用した交流の場づくりが考えられる。
- ★既存施設を活用する。公民館、図書館など(空いている施設)を有効活用する。

<空き家などを活用した居場所>

- ▲地域の空き家が増えてきた。
- ▲若者世帯はお金がない。
- ▲地域の空地・空き家が増えてきた。
- ★顔を合わせる場として、空き家を有効活用できないか。防犯対策にも良い。
- ★学童保育などに活用する。
- ★お金をかけずに、若者が集う場所づくりをする。スポーツなどに活用する。

<地域でシェアできる仕組みづくり>

- ★ひとつのお店を地域でシェアできる仕組みがあると良い。
- ★セミナーなどで活用する。
- ★ワンコインで利用できるようにする。
- ★コミュニティの活性化につながる。

人材の交流の機会づくり

<地域活動の活性化>

- ◎南大塚自治会は、地域の活動が活発。
- ▲地域活動に参加する若い人が少なくなっている。
- ★若い人を巻き込む。参加できるきっかけをつくる。
- ★高齢者の働ける場づくりが重要。

<人材交流の活性化>

- ★人材を交流させることで、まちが活性化する。
- ★大学や進学校があることを活かして、人材の交流が生まれる学園都市としての魅力を高める。

<若者のまちづくりへの参加>

- ★新しい視点で産業を考える。中高生などがまちづくりに参加する機会をつくる。参加することが楽しいことを魅力にする。
- ★若者がイベントなどを企画する。若者の居場所づくりになって、住む魅力づくりにつながる。体験イベントなどが良い。

<まちづくりへの参加の機会・場>

- ◎観光ガイドボランティアを知らなかった。
- ◎ボランティアが管理している河川の水辺の緑が地域の魅力になっている。
- ★資源をしっかり保全・活用する取組を通じて、交流が生まれる。
- ★高齢者などの参加も期待できる。

①地域の身近な居場所づくり

<高齢者からの視点>
▲高齢者の集まる場所がない。
▲高齢者の活動する場や働く場がない。

<子どもからの視点>
▲放課後の子どもの居場所がない。
▲土日は保育園で預かってもらえない。

<地域住民からの視点>
▲地域住民の接点の場や機会が少ない。
▲コミュニティセンターの立地が悪い。空き家・空き教室が増加。
▲まつりに参加ができない。参加するための情報が欲しい。
◎ボランティア活動が活発化している地域はある。

<居場所づくりに活用すべきストック>
★空き家を活用したコミュニティの場づくり。
★学校の空き教室の活用。
★川越まつりをコミュニティの活性化に活用。
★駅に託児所を設ける。
★川越グリーンパークの高齢者の交流の場の充実。

<地域・住まいの近くでこんな活動があるとよい>
★モノづくり（子ども工作教室等）。
★展示（子どもたちの作品、地域の文化活動等）。
★ショップ（地域の運営）。
★習い事等の教室（パソコン・スマホ等の若い人のスキルの伝授等）。
★高齢者の寺子屋（高齢者の経験や知識・技術等の伝授等）。
★農協が協力した地場野菜の販売（形の崩れたものを安く提供等）。

<地域に住む人材（人の資源）の活用>
★経験豊かな高齢者の方を活用した方がよい。
★地域のボランティアも活用。
★居住している地域の近くで活動が出来るようにすることが必要。

<地域の活動を活発化するための工夫・アイデア>
★様々な市民の知識を共有できる場や仕組みづくり。
★イベントや地域の人材の情報発信。市が架け橋となった情報提供。
★学童、お年寄り、若い人のボランティアを増やす。
★住民の特技をデータベース化。
★地域で活動したい人とその活動の場を結びつける仕組みづくり。
★中心部の公園や広場を地域のイベントなどに活用。
★地域の文化事業を充実。
★高齢者の雇用の場を確保。

②地域の足となる公共交通の充実

<バス交通が不便>
▲既存のバス交通が不便。
▲子育て世帯が増加している所にバスが少ない。
▲特に周辺部のバスの本数が少ない。
▲バスの運行や利便性を高める道路の整備が必要。
▲高齢者が運転免許を返納しやすいような公共交通の充実が必要。

<生活者の視点から見ると地域のバス交通が不便>
▲シャトルバスが通っていても利用できない地域がある。
▲シャトルバスが少なく買い物等が不便。
▲シャトルバスを増やして欲しい、本数が少ない。
▲オンデマンドバスが不便。
▲オンデマンドバスは高い、予約がしにくい、使いづらい。

<バスルート・交通網の見直し>
★運転免許を返納した高齢者向けのサービスを充実。
★観光客目線だけではなく、生活者目線でのバスルートの再編。
★市の施設とバス交通のリンクを充実。
★通勤・通学用のシャトルバス。
★いつでも気軽に利用できるようなオンデマンドバスの充実。

<公共交通を充実する工夫・アイデア>
★農作物の販売所をバス停の近くに設置。
★イベント等の情報発信。イベントに合わせた水上公園と駅のバス。
★イベントに合わせた無料バスの導入。
★住宅地内でも運行できるワンボックスタイプのバスを導入してバスの本数を増やす。

その他

▲景観面などもっと個性的な駅前だと良かった。中心部の緑が少ないと感じた。
▲中心部はきれいになり、観光客が増えているが、観光客の泊まる場所が少ない。
▲教育環境を充実させるためには、学校の先生や保育士の働く環境を整えて欲しい。
▲安価なマンションや戸建住宅など人口が増加している所がある。
▲副都心線への乗り入れは便利ではあるが、都心までの通勤・通学時間が長い。

③永く住み続けられる住宅地の整備

<中心部の魅力づくりが進んでいる>
◎観光客が増えている。観光資源が良くなっている。
◎川越の駅前の景観がすっきりとした。
◎駅前を中心に大きく変わった。
◎ウェスタ川越が完成。
▲駅が3つに分かれていて乗り換えが不便。

<道路整備が進んでいるが渋滞等の問題はある>
◎バイパスの整備により便利になった。
◎本川越駅の駅前通りがきれいになった。
▲北環状線はまだ渋滞がある。

<住宅地の問題点は多い>
▲近くに公園がない。
▲生活道路の整備が必要、歩行者空間の安全性の確保。
▲住宅地の路線バスやシャトルバスが少ない。
▲防犯灯が少ない。自治防災が分かりづらい。
▲郊外の下水道の整備。
◎周辺は緑が豊かで湧き水もある。

<住宅地に永く住み続けられるまちづくりの工夫・アイデア>
★中心部と周辺部の住宅地でまちづくりの温度差がある。
★中心部以外の道路等の基盤整備や交通サービス等を充実。
★道路の渋滞を緩和する時差式の信号、交通規制。
★ゴミ出しルールの徹底（外国人向けのルールの周知等）。
★地域でのまちの美化活動等を通じた地域コミュニティの充実。
★いつでも資源ゴミ（ビン・カンなど）を出せるステーション。
★ごみの分別をもっと細かくして、リサイクルを高める。
★無電柱化を進める。
★湧水を非常用水として活用。

凡例

◎ピンク：良いところ
▲青色：悪いところ
★橙色：アイデア・提案
・緑色：その他

D 若者が住みたいまちであるためには

【話し合いの論点】

- 「住むまち」としてのまちの環境の充実、魅力の向上が必要。
- 若者や将来の市民（子ども）を産み、育てる環境の充実が必要。
- 何はともあれ、若者の意見を聞くことが重要。

開催日

2019年6月29日(土)

住むまちとしての魅力向上

<若い人の働く場>

- ★若者の雇用の場を提供することが若い人が住み続けることにつながるため、企業を呼び込んで欲しい。
- ▲川越市内に働く場所がないと定住しない。

<住むためのまちとしての道路環境>

- ▲道路が狭く、歩行者の安全が確保されていない。
- ▲中心部以外は街灯・ガードレールが少なく、道路が狭い。子供の安全確保が課題である。
- ★住みたいと思える環境として、安全な道路、河川の整備は重要。
- ★中心部以外の道路環境を整備し、歩行者にも安全な道路とすることが必要。
- ★道路を拡幅してはどうか。
- ★安全対策の一つとして、通学時間帯は車のスピードを抑制させる仕組みがあると良い。

<市内外の公共交通>

- ★市内のバスの本数を充実するなど交通利便性を向上させてほしい。
- ★公共交通を充実させ、移動の自由を確保してほしい。あらゆる世代に必要なことだと思う。
- ★東京都心に少しでも早く行けるようにする。
- ★公共交通の利用料金を無料にする必要はないが、使いやすいものにしてほしい。
- ・中心部だけではなく、周辺部も公共交通は活性化が必要。

<その他>

- ・若い人がまちにいる雰囲気重要。若者が集う仕掛けが必要ではないか。

<住宅>

- ★公営住宅の1階には働く場を確保して、職住近接を実現してはどうか。
- ★市が対応するなどして、空き家を新たな住宅として活用していいのではないか。
- ▲川越の住宅は若者が住むには相場として高いのではないか。

<コミュニティ・交流の場>

- ★川越まつりを活用し、人と人とのつながりを持つきっかけとしてはどうか。
- ★自治会に参加してもらうことは重要である。
- ★子どもが塾以外で学べる場など、小さなコミュニティの中で交流できる機会があると良い。
- ★活動の場となる居場所づくりは必要。イベントを企画することなどを通して、つながりができると思う。
- ★空き家や空き地を活用して、地域の交流拠点にしてはどうか。高齢者の健康維持・増進のほか、子連れOKなチャレンジショップ、地域の子育て支援施設など、多様な世代への対応が可能だと思う。また、地域の中にそうした施設があることで、地域の目が行き届き、見守り、防犯対策にもなると思う。
- ・ゴミゼロ運動や地域清掃は、つながりを持つために大切な活動だと思う。
- ▲学校開放がなくなったことで、閉鎖的になっていると感じる。
- ▲地域の中に、集う場所が少ない。

<住むための生活サービス>

- ★買い物環境を整えてはどうか。

<農業>

- ★農業は、ブランド製品を作ることよりも安価な食材を提供してくれるほうが良い。高齢者にも優しいと思う。
- ★規格外の農産物を安く提供することで、安く安全な農産物が買えることが重要。

住み続けたいまちであるためのターゲット

<学生>

- ★大学・専門学校の誘致をすることで、色々な所から若者が来るようになる。そういった環境を活用し、住んでもらうことが重要ではないか。
- ★大学等を維持することも重要。若者が減らないようにする対策となる。
- ★学生が学ぶ場に加えてアルバイト等もできる場も必要。若い人が住むのに良い街となる。
- ★教育機関があると、商店街の振興にもつながると思う。
- ・学ぶタイミング(学生)で川越に住んでもらうことで、川越の良さを知ってもらえる機会にもなる。

<子育て世帯>

<医療環境>

- ▲子どもの医療環境は不十分。最寄りの他市の病院にかかっても支援がない。
- ▲川越は産院が少ない。
- ★医療、特に病院にかかることについては、周辺自治体と連携(申請システム・休日診療)してはどうか。

<子育て支援>

- ★子育て支援として、親がリフレッシュできる一時預かりサービスも重要。
- ★子どもが行きたくなる施設やその施設の魅力向上、情報発信をしてはどうか。
- ★子育てや教育への支援(補助)をしてはどうか。
- ◎市内にはこどもの城やプラネタリウムといった子供が楽しめる施設がある。もっと活用してほしい。
- ▲待機児童が多い。
- ▲市の子育てに対する補助が少ないのではないか。
- ▲土日働く人に対する子育て支援が不十分。土日だと、子どもが預けられない、預けられても午前中だけといった所が多く、結局思うように働けない。
- ▲児童館が少ない。
- ・幼保無償化はありがたいが、もっと早くして欲しかった。
- ・土日にも子供を預かってもらえる保育など、働く人を支援する子育て支援を充実して欲しい。
- ・子育て世代に住んでもらうことが重要。

PR・情報の発信

<情報発信・PR>

- ★川越の持つ観光などのポテンシャルを活かして、PRしてはどうか。
- ・観光でまずは人を呼び込む。
- ★子育て層の定着を図り、次世代の川越市民の定着につなげる。
- ★産業の活性化は社会的に難しいと思うので、観光面で活性化を図ってほしい。
- ★街のPRには川越まつり、オリンピックを活用すべき。
- ▲若者にとって分かりやすく、親しみやすい魅力がない。
- ★PRは、文章や文言だけではなく、イメージや体験など、分かりやすく親しみやすい方法で行うべき。
- ▲川越に住むメリット、住み続けるメリットが伝えきれていない。
- ▲川越自体が住むまちとして、いま魅力が不足していると思う。

<定住に向けたきっかけ>

- ★定住促進に向け、一定期間無償で住宅を提供するなどし、まずは住み、生活してもらおうと良いのではないか。
- ★若い人や独身者をターゲットにして、住む、働く、学ぶといった生活の一部を行えるような仕組みを作っていくことが必要。

凡例

- ◎ピンク：良いところ
- ▲青色：悪いところ
- ★橙色：アイディア・提案
- ・緑色：その他

A 人と人とのつながりから広がるまちづくり

【話し合いの論点】

- 地域・世代の温度差を埋める交流活動。
- 交流活動を楽しむ・楽しめる。
- つながりの場をあの手この手で情報発信。

開催日

2019年6月30日(土)

温度差

<新旧世代の温度差>

- 子育て世代に親しみを持ってもらえる。
- ▲高齢者は、自治会に入っていない人が多い。
- ▲自治会、子ども会は、子どもの卒業を機にやめる人も多い。
- ▲育成会に入っているからといって、自治会活動に積極的というわけではない。
- ▲世代のつながりがうまくいっていない。
- ▲マンションの新旧住民で交流が上手くいっていない。

<地域の温度差>

- ▲市外から転入すると、地域で疎外感がある。
- ▲川越は、新規住民にとって閉鎖的な雰囲気がある。
- ▲スポーツ活動など地域活動に参加しづらい。
- ▲川越まつりは、新しい居住者や郊外部の居住者は参加しづらい雰囲気がある。
- ▲中心部と周辺部では温度差がある。
- 空気が良く、通勤しやすい。

<マンション>

- ▲空き部屋ばかりになったらどうするのか。
- ▲駅前のマンションは、住んでいるだけ。
- ▲広場がない。

つながる場

<自治活動>

- 自治会は、地域のつながり。
- ▲最近では、自治会費もポストに入れる。顔を合わせる機会がない。
- ▲学校を卒業すると、育成会役員は新しい人になる。⇒自治会とのつながりが持てない。
- ▲自治会に入らない人が多い。
- ★市がもっと支援してくれると良い。
- ★従来の自治会ではない、新しいつながりが得られるような組織を考えてはどうか。
- ★顔を合わせるつながりから、新しいつながりに発展させてはどうか。
- ★自治会に参加してもらうため、催物・イベントなどの交流の場を作ってはどうか。
- ▲防犯灯・ゴミ・災害時の共助などは自治会でやっていることが伝わっていない。
- ★文字にして、自治会のメリットが目に見えるようにする。
- ▲自治会の入り方が分からない。
- ▲担い手となることに戻込み。
- ▲自治会長の担い手がいない(笠幡)。

<まちなか>

- マンションが少ない地域は人づきあいが濃い。
- 中心部はゆるやかな人のつながりがある。

<交流の場・機会>

- ★スポーツ活動は交流の機会。入るきっかけがあると良い。
- ★大学生との交流。
- ★少人数でも、気軽に、低料金で行ける施設があると良い。
- ★スポーツの指導・花植えなど、行くと楽しい場が必要。
- ★自治会館がもっと身近な場所にあると、活動の場として利用しやすくなる。
- ▲公民館は行きづらい、参加しづらい。

<学校活動のつながり>

- 子どもの入学をきっかけに、学校を介してつながりができた。
- ★子ども世代とお年寄りが交流するのは、お年寄りの社会参加につながる。
- ★持ち回りで世代交流。
- ★おやじの会は、学校でして欲しいことをやる。後は飲み会。

<まつり>

- ★嘶連は自治会を超えた交流になる。
- ★地域、世代に関わらず、参加できる機会をつくる。
- ★一緒に作り上げる取組み。

<自治会のメリット高めるメニュー>

- ★まつりをきっかけに、自治会に入ってもらおう。
- ★子どものための地域の見守り。

情報発信

<子育て情報>

- 子育て支援センターは、人とのつながりが持てる場。
- ▲近くに相談できる人がいないと、人と話せる場や機会がない人もあるのではないかな。
- ★パパママ応援カードを活用して、つながる仕組みを作ってはどうか。

<市外就労者への情報>

- ▲サラリーマンは特に、市内で寝泊まりしているだけの生活になると、個人からのアクションは難しい。
- ▲平日、市外で働いていると、よほど注意深くしていないと市からのお知らせも伝わらない。

<情報発信方法>

- ▲何でもホームページに載せられて、高齢者は情報にアクセスしづらい。
- ★それぞれの市民にあった情報発信が必要。
- ★上手く情報発信して欲しい。
- ★担い手を増やす上でも目的の情報にたどり着ける工夫が必要。
- ▲防災無線が聞き取りづらい。
- ★情報のデジタル化を進めるべきだ。
- ▲広報が届かないことがある。

人と人とのつながりを考えた時に大切なこと

<活動の充実・ネットワーク>

- ▲住民自治は充実していない。
- ★自治会の充実が必要。
- ▲自治会に加入していないと、家族構成も分からず、災害に対応できない。
- ★自治会は、さまざまな機関とのネットワーク化をしてはどうか。
- ▲担い手不足により消防団がなくなった地域がある。
- ★「山車がひける」というのを自治会加入のメリットとしてはどうか。

<楽しむこと>

- 市民講座は素人が講師だからおもしろい。
- ★趣味や好みにあった活動が社会活動になるとよい。

- ★“ふるさと”を作る。
- ★両親の近くに住みやすい環境を作る。

<教育・道徳>

- 幼少期の教育が重要。
- ★人のつながりには、教育・道徳も重要。

その他

- ・市役所移転。ウェスタを作る際、なぜそこに移転しなかったのか。

凡例

- ピンク：良いところ
- ▲青色：悪いところ
- ★橙色：アイディア・提案
- ・緑色：その他

都市の基盤づくり

<インフラ・道路整備>

- ▲道路が狭い。
- ▲歩道が狭いので、通学するのに危険。
- ▲河川敷がきれいなのに、活用されていない。
- ★河川敷をスケボーなどのスポーツや遊びなどに活用できるようにしてはどうか。
- ▲公園など子どもの遊び場がない。
- ★公共交通のハブとなるような施設が必要。
- ★安全・安心なまちづくりの視点で必要な整備を行って欲しい。

<都市機能>

- ★川越駅西口に市役所機能を移転・集約してはどうか。
- ▲小児科やクリニックなどの子ども向け医療機関が不足。
- ★子育て世代が住みやすいまちづくりを行うには、小児科などの病院も一定程度必要。
- ▲クリニックが少なく、まちなかにしか病院がない。

活力を生み出す資本

<財政>

- ▲少子高齢化に伴い、税収が減る。
- ★行財政の健全化を図ることが必要。
- ★高齢者を対象とした事業ばかりに取り組むのではなく、未来を担う若者に予算を使うべきではないか。
- ★行政なので平等に施策を実行しなければならないだろうが、例えば、若者向けの施策を優先して行う等、優先順位をつけて施策に取り組むことが必要。
- ★最近、年金に関する問題がニュースになったが、少子高齢化で働き手が不足しており、税収もあまり望めないことから、市民が自分で老後をどう過ごせばよいか考える必要がある。そのため、老後を見据えたライフスタイルのアドバイスを行政が市民に行ってはどうか。
- ・市民の関心としては、財源を投入した効果がどれだけあったかということであるため、施策の効果については示して欲しい。
- ★人口減少は避けられない問題であり、増加させるというよりは人口を維持する方向で考えた方が良いのではないか。
- ・若者の意見を取り入れながらまちづくりを行うことで、若者を取り込む。

<商業>

- ものづくりのまち。
- 芳野には、工業団地があり、働く場が多い。
- いろんな店舗がある。
- ★地元で働きたい若者に向け、働く場があることをPR。
- ★企業誘致をしてはどうか。

川越の魅力

<みどり>

- 山田の緑がキレイ
- ★緑がきれいなので、その緑を生かしつつ、ショッピングセンター等の集客施設を建てて、人を集めてはどうか。

<景観>

- 景観的な魅力があり、高さ制限などの景観保全に関するルールがあり、景観に配慮している。

<歴史・文化>

- ▲担い手がいないため、伝統文化が継承されていない。
- ★伝統文化を継承するため、職人技を見せる、伝える。
- ★川越市の歴史・文化を普及啓発。
- ▲市内の各所に大きな文化ホールがない。
- ★ウエスタ周辺を教育や文化の拠点としてはどうか。
- 川越の魅力でもある歴史について、氷川地神社で勉強会を行っている。
- 川越市には歴史がある。

<郷土愛>

- 川越市民は郷土愛が強い。
- 人情味がある。
- 川越市在住の外国人から、川越は住みやすく人が良いと評判が良い。
- 小江戸川越ブランドが確立されており、関東だけでなく遠くは九州まで名前が知られている。
- 東武東上線沿線の中でも歴史あるまち。
- 都内だと待機児童が多いため、川越市に移住してきたのだが、市民で川越市のことを悪く言う人がいなくて、住んで良かったと感じる。
- 元々魅力があるまち。

川越の魅力を継承・発信

<子育て・教育>

- ★子育て世代にとって、住みやすい住環境が整っていることの魅力を発信してはどうか。
- ★フィールドワークを行い、市民に愛着や気づいていない魅力を発掘する。
- ★高校を卒業後も地元に残るよう、ほこり（郷土愛）を持つ教育を行う。
- ★子どもの頃から川越史に触れるような教育を行い、愛着を醸成。
- ★眠っている歴史を掘りおこして観光・教育資源にしてはどうか。
- ★ものづくりのまちであるので、文化・芸術などアートを教える学校の誘致も必要。
- ・子育て世代が川越市に住むには待機児童問題がある。また、教育現場では、最近、いじめの問題もあるので、対応が必要。

<広報>

- ★広報誌のデザインの工夫が必要（余白を設けるなど）。
- ★広報誌の内容の魅力を高める（学生のコーナーをつくる、イベントだけでなく歴史についても掲載するなど）。

<観光>

- 若い女性観光客が来ている
- 蔵通りがある等、観光地として魅力が多い
- 地元としても蔵通りを大切にしている
- 川越市の観光PRがうまいので、「小江戸川越」というキャッチのポスターを目にする機会が多い
- ▲どこの地方都市でもあるような川越らしい物販などが無い
- ▲ありがたいことであるが、観光客が多すぎて市民がまち歩きができない
- ▲観光客のリピーターが少ない
- ★眠っている歴史を掘りおこして、観光・教育資源にしてはどうか
- ★例えば、新大久保のコリアンタウンなど、若者を誘客するようなインパクトのあるまちづくりが必要
- ★イメージ戦略を持つことが必要
- ★蔵通りで食べ歩きができるので、食のまちづくりを行ってはどうか
- ★東京オリンピックに向け、ますます外国人観光客の増加が想定され、外国人にも対応できるようにすることが必要
- ★観光まちづくりを行うべきである
- ★人通りが多い土、日だけでも歩行者天国にしてはどうか（道が狭く、危険なため）
- ・市民の意見だけではなく、来街者の満足度を把握して、施策に活かすことが必要

川越の魅力を支える人のつながり

<コミュニティ>

- 地元コミュニティがしっかりしている。
- ★世代によってニーズが異なるため、世代ごとのニーズにあったコミュニティスペースが必要。
- ★中高生等の若者が中心市街地で集まれるようなスペースや、高齢者をターゲットとしたカフェなどがあれば良いのではないか。
- ★学生の場合は、川越駅前のウエスタに集まれるスペースを作るなど、若者の居場所づくりが必要。

<まつり>

- まつりに若者が参加している
- ・小さなまつりも大事にした方が良い
- ▲まつりなどの際は、人が多くて子連れだと歩きづらく、休める場所も少ないので大変
- ★ちょっとした休憩スペースがあると良い
- ▲イベントの翌日は、ゴミが多い

凡例

- ピンク：良いところ
- ▲青色：悪いところ
- ★橙色：アイディア・提案
- ・緑色：その他

C 持続可能なまちづくり

【話し合いの論点】

- 観光のまちづくりと住民の暮らしに関わるまちづくり（安心・安全など）をバランス良く進めることが重要。
- 市の税収の減少を見据え、住民主体のまちづくりが必要であり、そのための場づくりが重要。
- 移住者を増やすために、安心して暮らせる川越をPRしていくことが重要。

開催日

2019年6月30日(土)

都市基盤

<観光のまちづくり>

- ◎本川越駅前、電柱が地中化され、安全性が向上し、まち並みが美化された。
- ◎観光地としてテレビなどで紹介される機会が増え、観光客も増加している。
- ▲まち中の観光地化が進められたことで、観光客が増え、住民は暮らし難くなっている。
- ▲まちの整備が観光に特化し過ぎている。

<安全・安心なまちづくり>

- ▲一番街は交通量が多いのに対して、歩道が狭く危険である。観光客の増加に対応できていない。
- ▲交差点での交通事故が多い。
- ▲郊外部では、道路は以前と変わっていないのに、交通量が増加し、以前よりも子どもの通学などが危険になった。
- ◎地域の高齢者などが子どもの通学路の見守りをボランティアで行っている。
- ★自転車専用レーンを設置する。
- ★一番街などで、歩行者天国などの交通規制を行う。
- ★クラックやデコボコな舗装など、自動車のスピードを落とす工夫を道路に施す。
- ★障がい者や高齢者も安全に歩ける歩道の整備。
- ★地域の危険箇所を洗い出し、カルテを作り、周知する。
- ★事故の多い危険な場所では、道路上に標識などを設置する。
- ★子どもの通学路の見守りを大切にす。

<交通アクセス>

- ◎東京方面への交通アクセスがとて良くなった。
- ▲高齢者の移動手段が少ない。オンデマンド交通はあるが、事前に予約が必要で使い難い。

<下水道>

- ◎10年間で下水道の整備が進められ、下水道の環境は改善された。
- ▲霞ヶ関地区では、まだ下水道の環境が良くない。

<バリアフリー>

- ▲エスカレーターが整備されている施設が少ない。特に駅舎など。

<コンパクトな市街地>

- ▲人口減少を見据え、市街地のコンパクト化が必要になってくるとしても、古くから川越市に住んでいる人はコンパクト化に反対するのではないか。

財政

<地域主体のまちづくり>

- ▲人口減少下では、市の財源も減少する。
- ★市の予算の制約を踏まえ、市民がまちづくりに協力することが必要。地域でできることは地域で行う。
- ★住民が地域ボランティアに積極的に参加する。
- ★地域ボランティアに関する情報を充実させる。

<行政組織・運営の見直し>

- ★お金を使うところをできる限り減らす。小さなまちづくりを進める。
- ★市の財政の見える化や市民へのフィードバックを行う。
- ★横断的な組織改革。重点的な課題に対するプロジェクトチームの構築。

環境・景観

<ゴミ対策・暮らしのルールづくり>

- ▲猫などが捨てられていることがあるが、相談する窓口がない。
- ▲ゴミの分別回収のルールを守らない人がある。外国人や定住意識のない人が多い。
- ★外国人はルールを知らない、知る機会がない場合も多い。市が転入届けを受け取る際にゴミ出しのルールの周知をしっかりと行うことも必要である。
- ★外国人の居住者が増えているので、日本語以外の言語でのゴミ出し等の暮らしのルールブックを配布する。
- ★自治会で、ルールを守らない人に対して、声かけを行う。
- ★定住意識のない人に対して、コミュニティへの参加・ルールづくりを行う。

<まち並み>

- ◎きれいな街と評価されている。

ひと・地域

<まちづくりの担い手>

- ▲高齢化が進み、自治会活動の担い手が不足している。
- ▲川越まつりの担い手も年々減少している。
- ▲子どもの読み聞かせ活動など地域ボランティアの担い手が不足している。
- ▲地域の組織が保守的で外の人や新たな住民がコミュニティに入り難い。
- ★地域の担い手を確保するために、受け入れる側の意識を変えていくことが大切。
- ★地域の新旧住民の軋轢の解消。
- ★高齢化が進むので、お年寄り、シニアが楽しく暮らせるまちづくりが必要。

<地域コミュニティの場づくり>

- ▲地域の人が気軽に集まれる場がない。学校も住民に開放されていない。
- ▲空き家が増えている。
- ★地域住民が身近で集える場づくりが大切。増加している空き家を活用した場づくり。
- ★地域住民が集える場を行政で取りまとめ、使いたい人と場をつなげる仕組みを作りたい。
- ★道路を歩行者天国にして、地域の人が集まるイベントを開催する。
- ★場があることが重要であり、広場のようなものでも良い。川も活用できると思う。(屋根、トイレ、水飲み場くらいの設備があれば良い。)

<移住促進・子育て環境>

- ◎東京に近く、身近に自然が多くあり、居住地として魅力的である。
- ◎治安が良く、子育てが安心してできる環境である。(都心から子育てのために川越に移住を決めた。)
- ◎身近に川越に住んでいて川越を悪く言う人がいなかった。古くから住んでいる人はまちを好きな人が多い。
- ▲自然は多いが、屋外に日陰のある場所が少なく、子どもの遊び場となる自然環境は不足している。
- ▲子どもが増えているが、子どもの量に対して小児科が少ない。
- ★若い人の車離れが進んでおり、子ども連れのお母さんが東京方面や横浜方面に電車で移動しやすい環境があると良い。
- ★子育てのしやすい環境整備や子育てに対する支援を充実させる。
- ★子ども連れで楽しめる場づくりが大切。
- ★子育て環境の良さをアピールするために路上喫煙をもっと厳しく禁止する。
- ★住んでいる人が川越の暮らしやすさや魅力をPRする。観光面だけでなく、安心して暮らせるまちであることをPRする。

教育・文化

<教育>

- ▲子どもたちの未来に対して、持続可能という観点で考える必要がある。
- ▲地域の学校の設備に格差がある。
- ◎市内の学校で、地域とふれあう教育が充実している。
- ★教育に力を入れることが大切。

<祭り・歴史>

- ◎川越まつりが有名である。
- ▲歴史あるまちとしてPRしているのに、歴史が大事にされていない。川越まつりは曜日に合わせて、土曜日、日曜日の休日に行われているが、歴史を尊重するなら、暦に合わせて行われるべきである。
- ▲蔵造りのまち並みが有名だが、店舗が閉店する危険がある。
- ★蔵造りの店をしっかりと守っていくために、市の補助が必要。

技術革新

- ▲IT技術が進化し、生活が便利になる一方で、生きにくい人が増えていくのではないか。

凡例

- ◎ピンク：良いところ
- ▲青色：悪いところ
- ★橙色：アイデア・提案
- ・緑色：その他

D 若者が住み続けたいまちであるためには

【話し合いの論点】

- 若者に川越の魅力を知ってもらうことが重要。
- 安全・安心に子育てができ、家族を育む、長く住めるまちにすることが必要。
- 観光だけでなく、住むまちとしての魅力や情報のPRが必要（災害の少なさ、外への交通利便、自然、人の良さなど）

開催日

2019年6月30日(日)

若者のいるまちとするために

<大学生>

- ・若者がいるまちであるためには大学があり、学生がいることが重要。そういう意味で大学誘致は重要。
- ▲若者が楽しいと思えるコンテンツがまちに少ない。
- ▲大学があり、せっかく大学生がいるのに、就職となると川越から出て行ってしまう。
- ★大学生に川越の魅力を知ってもらい、住み続けてもらうことが重要。
- ★川越まつりなど、川越を代表するイベントに積極的に学生に参画してもらってはどうか。
- ★大学生が多く住むという特色を活かした魅力あるまちづくりが必要。
- ★空き家を活用し、学生向けの住宅を提供するなどして、学生が住みやすい環境、魅力を整えてはどうか。

<若者の定着に向けた働く場や出会いの場の創出>

- ★子どもたちも含め、学生が職場体験する機会を増やし、川越で働くことをイメージしてもらってはどうか。
- ▲正規の社員として働く場が不足している。働く場がないと、ここで結婚し、子育てし、生活することにつながらないのではないか。
- ▲気軽に若者が運動し、交流する環境がない。スポーツを通しての交流が出合いにつながり、結婚、子育てにつながると思う。
- ▲公営のスポーツクラブが少ない。
- ★農業を活用したふれあい、出会いの機会を創出してはどうか。

<若者の意見聴取>

- ・若者に意見を聞くことも重要。

子育てするまち、家族を育むまちとしての魅力向上

<医療>

- ◎医療面は埼玉県平均より良い状態にある。
- ◎周産期医療センターがある。
- ▲小児科は少ないと思う。子どもの医療体制を充実させる必要がある。

<子育て支援（保育・学童など）>

- ◎学童は、幅広く多くの人を受け入れてくれていると思う。
- ◎保育園と学童クラブは、充実している方だと思う。
- ★保育園は、都内と比較すると入りやすい。
- ▲児童館が少ない。
- ★保育園・学童クラブなどが充実していると、子育て世帯は住もうと思ってくれると思う。
- ★学童クラブや保育園の整備によって、子育て世帯が安心して住むことができると思う。
- ★子育て環境や働く場を充実し、女性が住みやすいまちにすると良いのではないかな。
- ★保育、教育への支援を充実させてはどうか。
- ★子育て支援施設を充実し、子育てする親をサポートできる体制にすることが重要。
- ★食事する所がある、子育てしやすいなど、「住む」場所としての魅力を向上させる。
- ★居住環境や交通利便性を充実させることが、子育て世帯にとって魅力が高いまちになる。
- ★子どもが安全で安心してまちに出られる環境を整備する。

<つながり>

- ・核家族をなくしていくことが重要。
- ★親と同居や近居し、核家族化からの転換を促進してはどうか。
- ★高齢者が住みやすいまちであることは、多くの世代が住みやすいまちにつながるのではないかな。
- ★高齢者施設と保育施設を合体させ、交流や見守りを同時に促進。
- ★つながり、治安の良さが川越の良いところ。子育て世帯にとっても、魅力の一つとなるのではないかな。

<交流の場、空間>

- ▲若者、高齢者などいろいろな人が集まる場や広場が少ない。
- ▲既存の施設や場所は、自由度が低く使いづらい。連携も少ないと思う。
- ▲学校は一定圏域内にあるのに、開放されていない。
- ▲空地・空家はあるが、活用されていない。
- ▲子どもが遊べる公園がない。
- ▲川があるのに活用できていない。
- ★空地などを活用し、公園を整備してはどうか。

<交通>

- ▲中心市街地を外れると、子どもたちだけで歩くには不安。交通面での見守りが親の負担となっている。
- ★自転車を使いやすいまちにすることで、子どもにも子育て世帯にも良いまちになるのではないかな。
- ★交通の充実はあらゆる世代にとって魅力となる。
- ★中心部ばかりバス路線が充実しているので分散化させてはどうか。
- ◎都心や新幹線駅へのアクセス、高速道路の利用といった交通環境は良く、外への交通利便性は高い。（都心や地方）
- ▲市内は交通渋滞が慢性的に発生していると感じる。
- ▲郊外部では公共交通が不便なところが多い。
- ▲川越は通勤のためのバスが不十分。市内の移動がまだまだ不便である。

<その他>

- ★子育て世帯のニーズをきちんと聞くことが重要である。
- ★若者をターゲットにするなら、単身者ではなく、子育て世帯を狙うべき。
- ▲子どもが成人すると川越から出ていく。
- ★子どもたちが人生設計するための教育を充実させてはどうか。
- ★企業誘致などにより、川越で働き、安定した職につける環境を整備する。
- ★子どもの頃から川越に居て、良さを知ってもらうようにすることで、一度、川越を離れてもまた戻ってくる、将来の市民になるような取り組みをしてはどうか。
- ・下水道など郊外部でのインフラ整備は必要だと思う。

住むまちとしての魅力・情報の発信

<川越の魅力・良さ>

- ◎歴史あるまちであることは川越の魅力の一つ。
- ◎地域の人子どもを見守るところもあり、人が優しい。
- ◎住みやすいし、川越が好き人が多いところも魅力。
- ◎買い物環境が充実している。
- ◎まだまだ自然が残っている。
- ◎災害が少ない。
- ★スマートシティへの取り組みなど、新たに住むまちとしての魅力を高めてはどうか。
- ★交通利便性も良く、安心感もある。総合的に住みやすいまちではないかな。

<PR・情報発信>

- ★住みやすいまちとして、もっと上手にPRしてはどうか。
- ★住んでいる人々を題材として、外に向けて発信してはどうか。
- ▲都心へのアクセス性も高いベッドタウンなのに、PRできていない。
- ・観光のまちとしては十分PRできている。

凡例

- ◎ピンク：良いところ
- ▲青色：悪いところ
- ★橙色：アイデア・提案
- ・緑色：その他